



同前 雅弘

大和証券グループ本社
名誉顧問



今はなき人生の師を偲んで

人生を振り返るに当たり、二人の人生の師との出会いを思い浮かべずにはいられない。

一人は、中学時代の国語教師であった浅野義三衛門先生。面倒見がよく、汽車通学の距離が長い私が先生宅に転がり込むことを、温かく見守ってくださった。半面、岡山県山岳連盟会長であった浅野先生は、登山においては大変厳しい方だった。伯耆大山^{ほうきだいせん}では厳しい忍耐と訓練の道場として、各登山ルートを制覇した。高1のころには、槍ヶ岳、前穂高岳連山の縦走を果たした。

先生は命の恩人でもある。絶壁の岩場で軽率にも判断を誤り転落寸前となった私を、間一髪ロープを投げて救っていただいたこともあった。

先生によって培われた忍耐力と根性は、その後、困難に立ち足はかかるたびに私を鼓舞してくれた。社会人になっても人生のありとあらゆる岐路で相談相手として、人生の師として数々のご指導をいただいた。晩年まで強力なる私の囲碁のライバルでもあったが、ついに超えることのできない師であった。

今一人は、1969年、突然のニューヨーク転勤命令により渡米した際に出会った、米国大手資産運用会社ドレイファスのハワード・スタイン会長。

当時、米国からは18.75%の利子平衡税をかけられ、対日投資は完全停止状態だったが、日本経済の将来性を非常に高く評価し、あえて税込みでの莫大な対日投資を敢行。その後の日本市場の躍進に大きな影響を与えた人物だ。

そのクールで大胆な決断力、絶妙なタイミングでの数々の投資運用のご指導は、ニューヨークで駆け出し

の私を大いに鍛え、刺激を与えてくれた。会長との公私ともどものお付き合いは私の帰国後も続き、国際営業部長・株式部長としてさまざまな困難を乗り切る際も、陰に陽に貴重なアドバイスをいただいていた。

別々の世界を生き抜いた二人の師は、偶然にもほぼ時を同じくして他界された。

二人の師に、ご指導とともに家族ぐるみのお付き合いをさせていただき、私は果報者だとあらためて感じている。素晴らしい人との出会いは、本当に何十年の時を経てもなお、人生の幸せを感じる時を与えてくれるものです。



左から1番目が浅野先生、5番目が私。



左からハワード氏の奥様、私。右からハワード氏、私の家内。